

南三陸 復興まちづくり通信

第14号(平成27年8月発行)



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成23年10月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。法人化を機会に、町内外の皆さまに活動の内容をご理解いただき、共に地域の再建への道を歩んでいくために『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。読者の皆様からの情報、ご意見、ご提案を頂戴できれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



(順調に工事が進む館浜地区の海岸防潮堤)



(陸側から見た海岸防潮堤、右側は県道)

防潮堤の工事順調に進む

歌津地区館浜海岸で整備が進められている防潮堤の工事が順調に捗っています。平成26年3月に工事が始まった同防潮堤は重力式のコンクリート堤で、海面からの高さが8.7メートル。天端の幅は

50センチ、基底部の幅が8.5メートルで、総延長は455メートルです。海側に幅3メートルの管理用の道路が設けられます。県道泊崎半島線の復旧工事も含めた総事業費はおよそ19億円です。

7月現在で、工事の進捗率は約70%。平成28年3月末の完成が見込まれています。



(志津川西地区 1・2街区 住棟配置イメージ図)

災害公営入居者向け「くらしの懇談会」開催

志津川と戸倉に整備される災害公営住宅への入居予定者を対象とした「くらしの懇談会」が8月1・2日の両日、町内で開催されました。

このうち、保健センターで開かれた志津川西地区1・2街区(60戸)への入居希望者の懇談会には、住民14人が参加。役場の担当者が工事の進捗状況について報告したほか、入居スケジュールや必要な手続きについて説明しました。当日は、復興みなさん会のメンバー4人が進行・記録係としてサポートしました。

同地区の公営住宅は、7月中旬に基礎工事が始まっており、平成28年10月入居予定です。

入谷に交流拠点「晴谷驛(ハレバレー)」完成!

南三陸町入谷鏡石に高齢者のための交流拠点「晴谷驛(ハレバレー)」が完成し、7月1日に開所式が行われました。施設を運営するNPO法人「びば!!南三陸」の鈴木清美代表は開所式(=写真)で、「仮設などで暮らす高齢者のみなさんの遊び場、学び場、結び場にしていきたい」と挨拶しました。



進む高台への住宅再建

町内に完成した高台移転の団地で、住宅の建築が進んでいます。志津川湾を望む高台に造成された戸倉地区の波伝谷団地では、整備された13区画のうち、既に6戸が完成。4戸が工事中で、1戸が基礎工事に取り掛かっています。



トヨタ財団の助成団体が活動を中間報告

トヨタ財団による「災害公営住宅におけるコミュニティ支援」プログラムの助成団体の連絡会合が7月13、14日の両日、釜石市で開催されました。

会には、被災3県の6助成団体のメンバーなど20人が出席し、それぞれの活動について報告しました。

2日目には、釜石市営上中島2期復興公営住宅(=写真)などを見学しました。



平成の森で「夏休みこどもの広場」開催

平成の森キャンプ場で7月20日、「夏休みこどもの広場」が開催されました。ドコモショップ古川中央店、宮城県臨床心理士会「ママかふえ」、復興みなさん会などが共催したもので、流しソーメンや、スイカ割り、スーパーボールすくい、水遊びなどのイベントが行われ、親子連れなど90人を超す参加者で賑わいました。



一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山26
上山八幡宮 社務所内 minasan.msrk@gmail.com

当法人は、トヨタ財団、大阪コミュニティ財団等の助成金を受けて、活動を行っています。